

『十字架での七言』

'21/01/10

聖書箇所:ルカの福音書 23 章 32-49 節(新約 p.167-)、他

いよいよ、ここ大阪でも、また、「緊急事態宣言」が発出される公算が大きくなってきました…。そこで、私たち八田西 CC では、礼拝をオンラインに切り替える前に、今一度、イエス様が私たちのために十字架にかかってくださった！という事実を、しっかりと覚えておきたいと思えます。

命題: イエス・キリストが十字架上で発せられた、七つの言葉とは？

皆さんもご存じのように、イエス様は、あの十字架上で、7つのお言葉を発せられたとされています。…そこで、今日の聖書箇所は、特定の1ヶ所ではなくて、それらの発言がなされたことが記録されてある、聖書のみことばを観察していきたいと思えます。そうすることによって、私たちが今一度、イエス様の十字架が、一体何のためであったのか？ということ、しっかりと理解できるようになること…、願わくは、イエス様の十字架が自分のためであったという聖書的理解にまで達して…、せつかく、神様が与えようとしてくださっている救いの恵みに、皆さんが預かれることを期待いたします。

どうぞ、聖書をお持ちでしたら、まずは、今回のみことばであるルカ 23:32 以降をお開きください。今日は、時間の関係もあって、できるだけ、手短に、イエス様が十字架上で発せられた7つのお言葉を観察していきたいと思えます。

I・『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』

●ルカ 23:34(新約 p.167)

まず、1番最初に観察していきたいのは、イエス様が、十字架上で、自分を十字架へと追いやろうとした者たちの赦しを祈られた、お言葉であります。どうぞ、ルカ 23:32-46 をご覧ください。まずは、こちらで読ませていただきます。

- 32 ほかにもふたりの犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために、引かれて行った。
- 33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとりには右に、ひとりには左に。
- 34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。
- 35 民衆はそばに立ってながめていた。指導者たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし、神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ってみろ。」
- 36 兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、
- 37 「ユダヤ人の王なら、自分を救え」と言った。
- 38 「これはユダヤ人の王」と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった。
- 39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりにはイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。
- 40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。
- 41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」
- 42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」
- 43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにい

ます。」

44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。

45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真つ二つに裂けた。

46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

今読んだ箇所には、イエス様が十字架上で発せられた、第1と第2、そして、最後、7番目の言葉が記されてありました。この時、イエス様の両横には、2人の犯罪人が一緒に十字架に付けられておりました。しかし、イエス様が発せられた第1の言葉は、その犯罪人たちではなく…、そこにいてイエス様のことをあざ笑っていた民衆たち、あるいは、自分を十字架へと追いやった者たちに対するものであります。

ところで、皆さんは覚えてくださっています？ イエス様は十字架に磔にされる前、ゲツセマナの園で何をされました？ ⇒ イエス様は、その前の晩、弟子たちを伴って、ゲツセマナの園へ行って…、そこで、父なる神様への祈りを捧げられましたでしょ。その時、イエス様は、父なる神様に対して、こんなことを祈られたのです、「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」(ルカ 22:42) って…。

皆さん、聞いてくださいました？ ここで、イエス様が言われた、『杯』と言うのが、「十字架刑のこと」を指している、というのは明らかです。つまり、イエス様は、本当ならば、十字架になんてかかりたくなかったのです！ …にも関わらず、イエス様は、『…しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。』ということを祈られて…、最終的には、自分の願いではなく、父なる神様のみこころに喜んで従います！ ということを祈られたのです。

改めて言うまでもなく、誰だって、十字架刑になんとかかりたくありません。苦しみたくはありません！ …にも関わらず、イエス様は、自ら進んで、あの十字架へと向かっていかれ…、そして、その十字架の上で、自分のことを十字架へと追いやろうとした者たちのため…、彼らの罪が赦されることを祈ってくださったのです！ ここに、イエス様の本心が現われています。皆さん、覚えてくださっています？ イエス様は、最後の晩餐の時、弟子たちにぶどう酒の杯を回す時、こんな風に言われたでしょ？ 『みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。…』(マタイ 26:27-28) って…。イエス様は、ご自分の血をもって、多くの者たちの罪が赦されるために、十字架にかかることを「よし」とされたのです。言わば、「身代わり」です。イエス様は、ご自分のいのちを犠牲にして…、そして、私や皆さんが救われる道を備えてくださったのです。そういったイエス様の本心が、この『彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』という祈りに表われているのです…。

イエス様は十字架という、最高の辱めと苦しみの中で、彼らの罪の赦しと救いのために祈ってくださったのです。そのように、イエス・キリストの十字架は、私たちの救いのためであったのです…。

II・『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』

●ルカ 23:43(新約 p.168)

そして、その次に、イエス様の発せられたお言葉は、43 節に記されてありました、『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』という言葉です。これは、明らかに、イエス様と一緒に十字架に付けられた、片方の犯罪人に対して発せられた言葉です。何と、強盗をして、死刑にまで処せられるような極悪人が罪赦されて、救われた！ と言うのです。ここで、イエス様がおっしゃられた『パラダイス』というのは、そういったことを意味しています…。

ある意味、残念なことですが、この犯罪人は罪に罪を重ね…、そして、十字架にかけられるほどの極悪人に成り下がっていました…。しかし、そんな極悪人が罪赦されて、救われた！と言うのです。一体、いつ、この犯罪人がイエス様のことを信じて、救われたのかは分かりません。しかし、イエス様の語ってくださったメッセージが素晴らしいのは…、イエス様は、どんな状況にある極悪人やあるいは、年配のご老人であったとしても、本当の希望や平安を…、そして、永遠の喜びを与えることができるのです。

このように、この聖書が教えてくれる福音のメッセージは、私たち、それを受け入れる者たちに希望や平安、また、喜びや感謝を与えてくれます。例えば、ある時、イエス様たち一行は、「ベタニヤ」というエルサレム近くの村を訪ねられました。そこには、マルタとマリヤ、そして、ラザロという3人の兄弟姉妹が居りました。しかし、そのラザロが死んでしまったのです…。その時、イエス様は、こうおっしゃいました、ヨハネ 11:25、『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。』って…。実際、このラザロは、1度、死からよみがえらせられたのです！

私たち人間は皆、必ず死にます。死は遅かれ早かれ、皆平等にやって来ます。…だったら、問題は、その死んだ後じゃないでしょうか？…果たして、私や皆さんが死んだ後には、どうなるのでしょうか？その先には、一体、何があるのでしょうか？すべてを造られた真の神様は、この聖書のみことばを通して、こう教えてくださっています、「私たちが死んだ、その先には、真の神様による裁きがある」って…。そうして、その裁き如何によって、私たちが送ってきた人生の評価がなされ…、永遠を過ごす場所が変わっていくのです。神様の前に、正しい…、価値ある人生を送った者には、その神様と共に永遠を過ごす祝福が与えられます。しかし、真の神様を拒み…、その神様から与えられた人生を自分の好き勝手に歩んで来た者たちに対して、神様は永遠の刑罰と苦しみを与えられます。

しかし、真の神様を信じ…、その神様が遣わしてくださったイエス様を信じ受け入れた者たちは、例え、死んでも、その後、たましいは、『パラダイス』にまで引き上げられて…、その後の永遠を神様と共に過ごすことができます。私たち人間は死んで終わり、ではないのです！

Ⅲ・『女の方。そこに、あなたの息子がいます』&『そこに、あなたの母がいます』

●ヨハネ 19:26-27(新約 p.221)

さて、次は、3つ目の発言に注目をしていきたいと思います。3つ目の発言は、ヨハネ 19:26-27 に記されています。どうぞ、できましたら、その発言の少し前、ヨハネ 19:23-27 を開けてみてくださいでしょうか？ここでは、イエス様の3つ目の発言だけでなく…、その少し前から読ませていただきます。

23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分(しぶん)した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた」という聖書が成就するためであった。

25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます」と言われた。

27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

ここでは、イエス様の家族に対する愛…、残されていく者たちに対する思いやりを見ることができます。聖書を見てみますと、イエス様が成人された以降、イエス様の母マリヤの夫となつたはずのヨセフの姿を見ることができません。恐らく、ヨセフは早くに亡くなってしまったのではないかと…というのが、一般的な考えです。また、イエス様には、少なくとも6人の兄弟姉妹が居た(マルコ 6:3)わけですが、どういわけか、この時、イエス様は彼ら弟たちには母マリヤの世話を頼まず…、そばに居た弟子のヨハネに、母であるマリヤの世話を頼んだわけでは、

ここで、イエス様は、実の母親であるマリヤに対して、『女の方…』と呼んで、何となく、冷たい印象を受けられるかも知れませんが、これはそういうわけではありません…。実は、これとよく似た状況が、ヨハネ 2 章の、「カナの婚礼」の時にもあったのですが…、この時、イエス様は丁寧な言い方をされて、そして、自分が神様に仕える、公の生涯に入られていたので、母マリヤのことを個人的な呼び方をするのではなく…、自分が救い主、あるいは、教師としての立場をわきまえて話しておられる、と考えられています。

少し状況は違いますが、ここ日本でも、例えば、牧師が葬儀などをする際に、それが例え、自分の親の葬儀であったとしても、公の場面で、「私のお母さん、私の母…」とは言わず、「？姉」と呼んで、やはり、一般的な葬儀と同じように、説明を続けると思いますが、ひょっとしたら、それと少し似ているのかも知れません。

とにかく、イエス様は自分が十字架にかけられて…、もう間もなく、地上での生涯を終えようとしていた、その時でさえも、自分の母親であるマリヤのことを気にかけて、マリヤのことを信頼のできる使徒ヨハネに託したわけでは、ひょっとしたら、イエス様が母マリヤのことを、自分の肉体的な兄弟ではなく…、信仰を持っているヨハネに託したというのは、やはり母であるマリヤの救いのことや、あるいはまた、自分の弟たちが救われることを願ってのことであったのかも知れません。

しかも感謝なことは、当初、イエス様が救い主であるということに対して、十分に信じることができなかった母マリヤや、イエス様の弟たちが、その後、イエス様を信じる信仰を持っていったことでもあります。彼らも、また、イエス様の身内 & 救い主の家族という“特異な環境”にありながら、イエス様のことを信じて救われていったのです。

Ⅳ・『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』

●マタイ 27:46(新約 p.61)、マルコ 15:34(新約 p.101)

その次の、4つ目の言葉は、大変理解が難しい発言であるということで、有名であります。どうぞ、その4番目の発言が記されています、マタイ 27:45-54までをお開きくださいますでしょうか？まずは、こちらで読ませていただきます。

45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。

46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる」と言った。

48 また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。

49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうか見ることとしよう」と言った。

50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。

51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。

53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都に入って多くの人に現れた。

54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった」と言った。

先程も言いましたように、この部分は一部の方たちに誤解を生んでいるみことばでもあります。正直、私自身も、初めて、このみことばを目にした時は、何かイエス様が救い主ではないかのような…、そんな気持ちを持ったようなことを覚えています。でも、もちろん、そうではありません！この、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」という言葉は、(恐らく)ヘブル語で、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか？』という意味の言葉で、それを、一部の者たちは、当時聞き間違えて…、イエス様が旧約時代の預言者であったエリヤのことを呼んでいる、と勘違いした者たちが居たようです。

でも皆さん、ぜひ考えてみてください。実は、福音書を書き記したマタイとマルコとは、自分たちが見聞きしたイエス様に関する様々な出来事を福音書として書き記すに当たって…、彼らは、十字架上の七言の内、この『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』という言葉だけを書き記したのです。もしも本当に、この言葉が、イエス様が救い主でないというような根拠になるような証言であるなら、マタイやマルコは、果たして、この言葉だけを福音書に記すようなことをするのでしょうか？

そんなことは、普通に考えたら、絶対にしません！でも実際、彼らは、マタイやマルコの福音書に、この言葉だけを書き記したのです。…ということは、つまり、この言葉はイエス様が救い主であられる！ということの大きな証拠であるはずですよ！そうではないでしょうか？実際、この時、イエス様の十字架のすぐそばに居たはずの、『百人隊長』は、イエス様の、この発言を含む、すべての現象を目の当たりにして、54 節にあるように、『この方はまことに神の子であった…』ということ、口にしたのです。これは、一種の信仰告白とも言い得るのではないのでしょうか！

実は、この、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ(=わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか？)』という言葉は、旧約聖書で、救い主に関するみことばとして、予め預言されてあった言葉なのです。今日は、もう時間の関係もあって、詩篇を開けることは致しませんが、もし、詩篇 22 篇をご覧くださいますと、そこには、救い主を見る者たちが皆、救い主のことをあざけるであろうことや、多くの民衆たちが口をどがらせて、頭を振ること…、あるいは、救い主に対して、「神に救ってもらえ！」というような暴言を吐くであろうことや、民衆たちが救い主の1つの着物をくじ引きにするであろうことなどが記されています。何と、すべてが神様によって、ダビデの預言を通して、1000 年も前から預言されてあったのです！

実は、ここ 46 節で、『お見捨てになった…』という言葉がありますが、この言葉(σβαχθαν; アラム語？の音訳)は、「残す、背を向ける…」という意味の言葉で、つまり、この時点で、父なる神様がイエス・キリストに対して背を向けられた、ということが説明されています。…と言いますのも、恐らくは、この時点で、イエス様が私たちの(=イエス様のものでない！)罪を負負ってくださったからです。だから、聖い者としてしか交わりを持たれない父なる神様は、この瞬間だけ、イエス様に対して背を向けられ…、イエス様から目を離されたのです。…と言いますのも、この瞬間に、イエス様は私や皆さんの罪を負って罪ある者となってくれたからです。そのイエス様が、私や皆さんの身代わりに十字架上で呪われた者となってくださり…、また、罪の裁きを受けられたことによって、初めて、私や皆さんに罪の赦される道が開かれたのです。

V・『わたしは渴く』

●ヨハネ 19:28(新約 p.221)

その次、5 番目にイエス様が口にされた言葉は、『わたしは渴く…』というものであります。そのことは、ヨハネ 19:28 以降に記されています。どうぞ、できましたら、今度は、ヨハネ 19:28-33 をお聞きください。

28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渴く」と言われた。

29 そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。

30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日(その安息日は大いなる日であったので)、死体を十字架の上に残しておかないように、すねを折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。

32 それで、兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者のすねを折った。

33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。

この、『わたしは渴く…』という言葉もまた、ある意味、イエス様の苦しみを物語り…、そして、これもまた、預言の成就であると説明されてあります。…と言いますのも、例えば、先程、引用した詩篇 22:15 でも、こういったことが預言されてあるからです、『私の力は、土器のかけらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついてます。あなたは私を死のちりの上に置かれます。』って…。救い主には、大変な苦しみや渴きが伴うであろうことを、この詩篇 22 篇だけでなく…、幾つかのみことばが預言してくれています。だから、ここヨハネ 19:28 でも、『この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために…』と書かれてあるわけです。

ここで、ヨハネ 19:28 のみことばは、『イエスは、すべてのことが完了したのを知って…』ということを見せてくれています。実は、イエス様が経験してくださった「渴き」といいますのは、ただ単に、旧約聖書の成就であっただけでなく…、本来ならば、私たち罪を犯した者たちが受けなければならない苦しみであったのです。皆さん、覚えてくださっています？ルカ 16 章で、苦しみの場所である『ハデス』に下ってしまった金持ちは、こんなことを、アブラハムに対して願いましたでしょ？『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しんでたまりません！』(ルカ 16:24)って…。イエス様が十字架上で、この時に経験された渴きは、本来罪を犯した者たち皆が苦しみの場所で受けるべき渴きであり…、それは、私や皆さんの身代わりでもあったのです。

VI・『完了した』

●ヨハネ 19:30(新約 p.222)

そして、6 番目の言葉は、先程読んだ、ヨハネ 19:30 に記されてあった、『完了した！』という言葉です。この言葉もまた、大切なことを、私たちに教えてくれています。この言葉が教えてくれていること…、それは、イエス様の十字架には、しっかりと目的があったということです。だから、イエス様は、この時に、『完了した！』という言葉をお口にされたのです。

もう、敢えて言う必要も無いですが、イエス様は、時の祭司長たちによって、陥れられて、十字架へとかかられたわけではない！ということが、この言葉によっても分かります。イエス様は、自ら進んで、十字架へとかかっていってくださったのです！それは、私たちの罪を赦し…、私や皆さんに、救いの道を用意するためでありました。でも、果たして、ここにおられる皆さんは、このイエス様が用意してくださった、救いを手にしておられるのでしょうか？ひょっとしたら、イエス様が、自分のいのちさえも犠牲にして備えてくださった救いの御業を無駄にはしておられないでしょうか？どうぞ、そういったことを、今一度、考えてみてください。

たいと思います。

VII・『父よ。わが霊を御手にゆだねます。』

●ルカ 23:46 (新約 p.168)

そうして、最後、7番目に、イエス様が十字架上で口にされた言葉が、ルカ 23:46 の、『父よ。わが霊を御手にゆだねます。』という言葉です。この言葉を、イエス様が口にされてすぐ、イエス様は息を引き取られたようです。どうぞ、もう1度、ルカ 23:46-48 を開けてみてくださいませんか？

46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、「ほんとうに、この人は正しい方であった」と言った。

48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をたたい悲しみながら帰った。

この部分を見ても、イエス様と父なる神様との関係が、決して、罪によって完全に分断されてしまったのではない！ということが分かります。…と言いますのも、最後の最後に至るまで、イエス様は、父なる神様のみことろに従って…、実に、十字架の死にまでも忠実であられたからです。ここで、イエス様が発せられた最後のこの言葉は、イエス様ご自分の使命を達成されたという、言わば、勝利の宣言でもあり…、と同時に、すべてを父なる神様に委ねられたということの証しでもあります。

このように、天の父なる神様は、私たち人間の罪を赦すために、わざわざ御子イエス様をこの地上へと送って下さいました。…と言うのも、ヘブル 2:14-15 で教えられてありますように、私たち人間が皆、血と肉を持っているので、救い主であるイエス様も、私たちと同じように、血や肉という、からだを持って下さって、それによって、悪魔に勝利するためでありました。イエス様が成し遂げて下さった、死に至るまでの忠実さと、復活(=よみがえり)とが、私たちに勝利をもたらしてくれるのです。

そういったことに関して、使徒ヨハネは、こう教えてくれています、1ヨハネ 5:4-5、『4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。5 世に勝つとはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。』って…。このイエス様を信じて救われた者たちこそ、本当の勝利を得ることができるのです。…というのも、イエス様は、ありとあらゆる罪に対して…、あるいは、罪の誘惑に対して…、そして、死に対しても、敢然と勝利して、よみがえって下さったからです。

このイエス様こそは、私たち人間にとって、唯一の救い主であられることは勿論ですが、それと同時に、イエス様は、私たち信仰者にとって、最高の模範であります。そのことを、使徒ペテロは、こう教えてくれています。I ペテロ 2:21-25、『21 あなたがたが召されたのは、実にもそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばられる方にお任せになりました。24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。25 あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。』

⇒今、皆さんが救われて…、ここに、こうして生かされているのは、皆さんがイエス様の模範にならって生きていくためです！…これは、私たちが先週に学んだことですが、私たちは、決して、「愛されるために生まれた」のでも、救われたのでもありません！私たちは、キリストのために…、神様の栄光を現わすため

に救われたのです！そうでしょ？…私たちの救い主となって下さったイエス様は、何度ののしられても、ののしり返さず…、最後の最後まで、罪を犯すことはありませんでした…。クリスチャンの皆さん。果たして、皆さんは、このイエス様を模範として、歩んでおられるでしょうか？また、罪を離れ、義のために生きようとしておられるでしょうか？このことは、私たちが実際に罪を犯しているかどうか、ということではありません。要は、私たちが、まず、イエス様を模範として歩もうとしているかどうか？なのです…。

もしも、私たちが、このイエス様を模範として歩もうとしていくなら、神は、必ずや、私や皆さんのことを霊的に成長させていって下さいます！しかし、その逆に、私や皆さんが、初めから諦めてしまって…、このイエス様を模範として歩もうとしていかないなら、私たちの行く末にあるのは、神様からの祝福ではありません。そこにあるのは、この世との妥協であり、挫折であり…、混乱や悲しみ、虚しさであります。でも、そんなことを、天の神様は、期待しておられません。どうか、十字架上でも、神様のみことろに従い続けられたイエス様を模範として、私たちが天へ召されるまでの1日1日を歩んでいっていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。